

ようこそ 宇都宮地検へ



宇都宮地検広報キャラクター
「べりいちゃん」

宇都宮地検ってどんなところ？



宇都宮地検は宇都宮市中心部に所在し、バスなどの公共交通機関も発達していて、とても通勤しやすい環境だよ。

また、宇都宮地検のほかにも県内には検察庁の支部があるよ。



検察庁では、検察官と検察事務官が一緒に仕事をしていて、検察官には、「検事」と「副検事」がいるよ。

その中でも **検察事務官** についてこれから紹介していくよ。

宇都宮地検の魅力は？どんな雰囲気？



宇都宮地検は、アットホームな雰囲気職場で職場の風通しが良く、業務の連携が取りやすいところが魅力です。周りには、優しく頼れる上司・先輩方がたくさんいて、若手職員が自分の意見を発言できるような環境が整っています。

また、部活も活発に活動しており、業務の息抜きであったり、交友関係を築ける機会も充実していると感じます。

宇都宮地検独自の取り組みは何かある？

宇都宮地検では「副検事試験へのサポート」、「若手検察事務官へのサポート」に取り組んでいるよ。

ここでは特に、若手検察事務官に向けたサポートの取組みについて紹介するね。

若手検察事務官に向けた取組みとしては、メンター制度と宇翔会があるよ。

メンター制度 は、年の近い先輩との面談を通じて、助言や支援を受けられる制度なんだ。

宇翔会 は、採用1年目～3年目の若手事務官の交流や勉強の場として、若手事務官がテーマを自由に決めて、施設見学やパソコン講座などの能力向上につながる活動を行っているよ。

ここでは実際にメンター制度を利用している感想と、宇翔会で印象に残っていることや感想について、職員に聞いてみたから紹介するね。



採用1年目 女性職員

日頃の悩みや相談はもちろんですが、ちょっとした疑問も気軽に相談できるので助かっています。

また、メンターの先輩とは、相談の回数を重ねるごとに打ち解けることができ、困ったときに頼れる存在で心強いです。

宇翔会で印象に残っている活動は、県警察本部の見学です。

ドラマなどでしか見たことがなかった足跡の採取体験ができたり、県警内の科学捜査研究所の見学ができたのはとても印象に残りました。

また、宇翔会では、レクリエーションもあり、話したことのない先輩方とも休日にBBQをしたことで楽しく親睦を深めることができました。



採用3年目 男性職員



宇都宮地検にはどんな仕事があるの？



検察事務官の業務は大きく分けて、事務局部門・検務部門・捜査公判部門の3つに分けることができるよ。

事務局部門 には、総務課、会計課があって、職員の福利厚生や予算の執行・管理などを行っているよ。また、企画調査課という部署では、職員の研修やパソコンの管理などを行っているんだ。

検務部門 では、事件の受理から処理に必要な手続や、刑罰の執行、証拠品や事件記録の保管などを担当しているよ。担当は大きく分けて、事件・令状・証拠品・執行・徴収・記録・犯歴の7つに分けることができるんだ。

捜査公判部門 では、事件の捜査や刑事裁判に関する業務を行っているよ。テレビドラマでよく見かける立会事務官は、この部門にいるんだ。



検察事務官の勤務条件は？

給与

検察事務官の給与は、採用時は一般の国家公務員と同じ行政職(一)の俸給が支給されるけど、職務の特殊性が考慮され、一定の期間が経過すると(大卒程度はおおむね1年、高卒程度はおおむね5年)、公安職(二)の俸給が支給されるよ。

そのほか、ボーナスや通勤手当・住居手当などの諸手当も支給されるんだ。

昇進

検察事務官として昇任を重ねていけば、最終的には事務局部門のトップである事務局長、検務部門のトップである検務監理官、捜査公判部門のトップである首席捜査官になることができるよ。

さらに、検察事務官から副検事への昇任という道もあるんだ。

勤務時間

一般的な行政機関と同様に、1日の勤務時間は原則7時間45分で、国民の祝日のほか土曜日・日曜日が週休日になっているよ。

休暇

休暇は、年間20日間の「年次休暇」のほか、夏季休暇・結婚・出産・忌引などを理由とした「特別休暇」や、負傷や疾病を療養するための「病気休暇」、配偶者等の介護を行うための「介護休暇」を取得することができるよ。

令和8年度から年次休暇は15分単位で取得できるようになったよ！

働き方

検察庁では育児休業の取得や、早出遅出勤務制度の利用といった働く時間の柔軟化を行い、男女問わず家事・育児・介護等をしながら活躍できる現場環境の整備を進めていて、ワークライフバランス推進に積極的に取り組んでいるよ。

宇都宮地検職員にインタビューしてみたよ！

宇都宮地検には、独自の副検事採用試験への支援制度があって、実際にその制度を利用して副検事試験に合格した職員に話を聞いてみたよ。



Q どうして副検事になったの？

副検事試験って大変？

副検事として働いてみて、大変なことや、やりがいを知りたいな！



私は、検察事務官として採用された後、現在は、副検事として宇都宮地検で働いています。

検察事務官として検察官の捜査、公判をサポートする中で、自分が主体となって事件の捜査や刑事裁判に関与してみたいという気持ちになり、副検事を目指すことにしました。

副検事になるための試験には、法律科目の論文試験があります。

働きながら勉強時間を確保するため、家族へ負担をかけることもありましたが、宇都宮地検では、最難関と言われる司法試験を突破した検事の皆さんが、多忙な業務の合間を縫って、無償で論文の添削指導をしてくれるサポート体制が整っており、限られた勉強時間で効率的に知識を得ることができました。

副検事になってからは、検察事務官時代とは違う責任を感じながら仕事をしています。

警察官と協力して事件を捜査しますが、私の判断が多くの人の仕事に影響を与えることがあり、プレッシャーを感じる場面もあります。

しかし、一つの事件の刑事手続が終わったときに、一緒に捜査した警察官、検察事務官と互いをねぎらい合ったり、事件の関係者から感謝の言葉をもらったりしたときには、それまでの苦勞が報われたと感じます。

苦勞もあるけど、やりがいもあるというのが検察庁の仕事の魅力だと思います。



採用18年目

男性職員



テレビドラマでよく見かける立会事務官について、実際に立会事務官として働いている職員から話を聞いてみたよ。



立会事務官の仕事内容や、やりがいなどについて教えて！



～立会事務官の仕事～

立会事務官は、検察官とペアになって、検察官のメインの仕事である「捜査」「公判」と一緒に遂行していくパートナーです。

立会事務官の仕事は非常に多岐にわたります。

例えば、取調べに立ち会って供述調書を作成したり、検察官とともに事件現場に行って現場を確認したり、裁判所の法廷で検察官の隣に座って裁判で使う動画の操作を行ったりなど、書ききれないほどたくさん仕事をしています。

～捜査：検察官と立会事務官だけ～

警察等から検察庁に送致（送検）された事件は、各検察官に割り振られます。

割り振られて担当となった事件のあらゆる証拠を最も精査・検討できるのは、その担当となった検察官とその立会事務官だけです。

私の経験で一番達成感があったのは、勾留期限が刻一刻と迫る中、約12時間の防犯カメラ映像を数日かけて精査し、その中からたった1～2分だけの窃盗の打ち合わせをしている場面の音声を見つけたことです。

この打合せをしていた被疑者（犯人）は、当初は犯行を否認していましたが、見つけた音声を聞かせたところ犯行を認め、裁判では有罪となりました。

自ら決定的な証拠を見つけ、事件の真相解明に貢献できたというのは、立会事務官として非常にやりがいを感じた場面でした。

～公判：検察官だけでは法廷に立てない～

裁判所に起訴（公判請求）することで、事件は刑事裁判として取り扱われます。

立会事務官は、刑事裁判がスムーズに進むよう、検察官とともに証拠の検討をしたり、個人情報公開の法廷で明らかにすることができないよう事件記録の一部にマスキングを施したりします。

その他にも立会事務官は、裁判に証人として出してもらう事件関係者や専門家との打合せに同席したり、その方々を当日に法廷まで案内したり、その方々に今後の裁判の予定を説明したりしています。

実際に法廷で証人尋問などを行っているのは検察官ですが、裁判を円滑に進めるためには、立会事務官の存在は欠かせません。

～終わりに～

立会事務官は、THE 検察という仕事に携われるので、やりがいのある仕事だと思います。

捜査・公判では、交通事件なら数学や物理、脱税事件なら簿記や税金の計算方法、傷害や殺人事件なら医学、サイバー犯罪ならIT関係など、様々な知識を使う場面があります。

これを読んでいる皆さんの様々な知識や経験が役に立つ場面が結構あるかもしれません。

特定のこれを学んでいない、こういう経験がないという理由で検察事務官になれないということはありません。

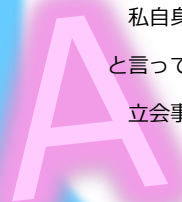
私自身、高校中退という検察庁職員にはあまりない経歴を持っていますが、当時の採用担当者から「面白い経歴」と言っていて採用していただきました。

立会事務官の仕事を知っていただき、検察事務官に興味を持っていただけたら幸いです。



採用10年目

男性職員



検察庁ではワークライフバランスの推進に取り組んでいて、育児休業を取得して、現在、育児と両立しながら働いている職員に話を聞いてみたよ。



育児休業って取得しやすいの？育児と両立しながら働くのは大変？？



私は現在、採用17年目で、2人の幼児を育てながら働いています。毎日バタバタな生活を送っていますが、仕事と家庭を両立できるのは職場環境のおかげです。

育児中の職員はそれぞれ家庭事情が異なるため、各種制度を利用しながら自分に合った働き方を選択しており、時短勤務だけでなく、早出遅出勤務や休憩時間短縮を活用してフルタイムで働く人も多く、私もその1人です。また、育児休暇や子の看護休暇など様々な休暇制度があり、その都度利用してきました。正直、そういった制度を利用する際、周りに迷惑をかけているかな、仕事の負担を増やしているかな、職場復帰後はちゃんと仕事ができるだろうかなど不安や心配が多くありました。しかし、育休前後は負担の少ない部署への配置や事務分担などに配慮をいただいたり、何より周りの職員から「大丈夫、みんな同じだから」「お互い様だから」と理解ある声をかけていただいたことで、この恩を仕事で返さなくてはとモチベーションとして働くことができています。

このように両立しながら働くことへの理解・協力のある環境のおかげで、忙しい毎日でも家族の時間を大切にしながら働くことが実現できる職場だと実感しています。



採用17年目

女性職員

宇都宮地検で一緒に働こう！



直接、働いている職員と話してみたい！もっと宇都宮地検について詳しく知りたい！という

方は、ぜひ業務説明会への参加をご検討ください！

業務説明会の案内は、随時当庁のホームページでお知らせいたします。

みなさんの参加をお待ちしております！

